

## 横須賀市廃棄物減量等推進審議会（第80回）議事概要

1 日 時 令和5年(2023年)2月8日(木) 午後2時00分から4時00分まで

2 場 所 横須賀市役所 消防局庁舎4階 災害対策本部室

3 出席委員 青委員、上田委員、織田委員、笥委員、嘉山委員、北村委員、  
木谷畑委員、佐藤委員、篠原委員、藤田委員、米村委員

4 事務局 環境部 山口部長  
環境政策課 佐藤課長、大野田主査、中村  
廃棄物対策課 関澤課長  
環境施設課 府馬課長  
広域処理センター 山本所長  
久里浜収集事務所 夏目所長

5 傍聴者 なし

6 議事内容

### 開会

- ・事務局が定足数である半数以上の委員の出席を確認し、会議の成立を報告

### 議事

(1) 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の進行管理（令和4年度実績）について

○佐藤委員長

それでは議事に入ります。「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の進行管理（令和4年度実績）」について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局

（資料1について説明）

○佐藤委員長

ありがとうございます。赤字になっている部分が前回からの変更点ということでしょうか。

○事務局

はい。

○佐藤委員長

前回の審議会でA・B・C・D・Eの5段階で評価してはどうかというご意見をいただきましたが、事務局で検討した結果、判断が難しいためA・B・Cの3段階で評価するとのこと説明がありました。一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の進行管理について、ご質問等のある方はいらっしゃいますか。

今はいらっしゃらないようですので、ご質問等があれば後ほどお聞かせください。

## （２）食品ロス削減推進計画（案）について

○佐藤委員長

続きまして、「食品ロス削減推進計画（案）」について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局

（資料2について説明）

○佐藤委員長

ありがとうございます。前回の審議会から大きく変わったのは事業系食品ロスに関する部分だと思います。事業系食品ロスについては、推移は把握していくが目標設定は行わないとのことでした。

計画（案）について、ご質問ご意見のある方はいらっしゃいますか。

○米村委員

7頁の参考の欄についてです。給食センターで回収した食べ残しは粉碎や脱水処理をした後、おから状にして排出しているとのことですが、これらは良い飼料になります。神奈川県のある養豚業者は食品残さを集め、殺菌も兼ねて軽く発酵させた後に飼料としており、良い結果が得られていると聞いています。幼稚園や学校の食品残さは基本的には異物は少なく質の良い飼料になると思いますので、ぜひ検討していただければと思います。

○佐藤委員長

ありがとうございます。ちなみにそれほどの地域の団体でしょうか。

○米村委員

場所は覚えていませんが、神奈川県内の高座豚を取り扱っているグループだったと思います。また、やまゆりポークの飼料にも一部使われていると聞いたことがあります。

○佐藤委員長

ありがとうございます。食品残さの活用例として参考となるご意見でした。ただいまのご意見について、事務局から何かございますか。

○事務局

おそらく米村委員がおっしゃられた施設だと思いますが、私も実際に見学に行かせていただきました。14 頁にもコラムとして記載させていただいております。

給食残さにつきましては、教育委員会の者とも話をしましたが、現在は経費の都合上で焼却処理をしています。ですが、今後そのままいいとは考えておりませんので、実現の可能性があれば紹介やルートの確立などを検討していきたいと思います。

○佐藤委員長

ありがとうございます。パブリック・コメントでもご意見が出てくると思いますので、それと米村委員のご意見を参考にして計画を修正していただければと思います。他にご質問やご意見はありますか。上田委員、いかがでしょうか。

○上田委員

13 頁の計画のマネジメントについて、数値目標は家庭系に絞ったとのことですが、事業系の評価を同じような形で一緒に記載するのは難しいのでしょうか。

○事務局

事業系につきましては、6 頁に事業系食品ロスの発生量の推計を記載しています。ですが、農林水産省が公表している数字を用いて算出しており、令和元年度の数字しかありません。

今後新しい数字が出てくると聞いておりますので、そういったところで事業系食品ロスの量を把握しつつ、目標値として設定できるような形になれば進行管理の中で確認していきたいと思います。

○佐藤委員長

ありがとうございます。ただいまの回答は、将来的に事業系に対しても評価の指標が具体的に増えてきたら追加していきたいとのことだと思います。上田委員、いかがでしょうか。

○上田委員

13 頁に令和 4 年度 7,562 トンという数字がありますが、どこを基準に算出した数値でしょうか。

○事務局

5 頁の表 4 に家庭から出る食品ロスの発生量として記載しています。家庭から収集した燃せるごみに含まれる食品ロスの割合を市で調査しており、その結果をもとに算出しています。13 頁ではその数字を令和 11 年度までの計画期間の中で、人口減少を加味したうえで 3%減して目標値として 6,934 トンと設定しています。

○上田委員

ありがとうございます。ということは、横須賀市の統計データということでしょうか。

○事務局

おっしゃるとおりです。

○佐藤委員長

ありがとうございました。5頁の表4について、「燃せるごみ量」と記載されています。また、ごみ処理基本計画の進行管理にも食品ロスに関する表がありますが、厳密には燃せるごみの定日収集に含まれる食品ロスの量だと思います。一看すると数字の出所がわからなかったもので、詳しく記載するか、脚注を入れていただければと思います。

(上田委員が挙手しているのを見て) はい、上田委員。

○上田委員

今お話のあったごみ処理基本計画の進行管理について、4頁の第2章にA・B・Cという評価が記載されています。2頁に評価基準の記載がありますが、4頁だけ見るといきなり評価が出てきているような形に見えるので、2頁に記載されているように「Aがどういう評価なのか」といった基準を、4頁の各評価欄の下に追記したほうが分かりやすいのではないかと思います。

○佐藤委員長

ありがとうございます。ただいまのご指摘に対して、事務局いかがでしょうか。

○事務局

ありがとうございます。おっしゃるとおり、いきなり「A」という評価が出てくるような形になっているので、バランスを見ながら各施策を評価しているところの下に注釈や説明を追記したいと思います。

○佐藤委員長

ありがとうございます。今回、ごみ処理基本計画の進行管理に補足やコラムを追加していただき、充実させて分かりやすくなったと思いますので、食品ロス削減推進計画も同じような形になればと思います。プラスしてこんなものを載せてはどうかといったご意見もいただければと思います。

(織田委員が挙手しているのを見て) はい、織田委員。

○織田委員

食品ロス削減推進計画の7頁について、参考の欄に「横須賀市の給食について」というタイトルで、市立中学校と公立保育園・こども園の給食についての記載がありますが、市立小学校の給食で発生する食品残さはどのような扱いになっているのでしょうか。

また、市立ではなくても病院や特養、有料老人ホームでも朝・昼・晩と食事が出されており、そういったところでも食品残さが発生していると思いますがどのようにお考えでしょうか。

○事務局

ありがとうございます。織田委員がおっしゃるとおり、給食以外にも他の要素もあると思います。市立中学校については食べ残しを給食センターで回収しているのと、大きく年齢が離れているところで保育園とこども園を記載していますが、ご意見いただいたとおり他の要素もあると思いますので、確認させていただき小学校や病院、特養など、食事を提供している他の施設で追記できるのであれば追記していきたいと思います。

○佐藤委員長

引き続き確認いただき、追記できるのであれば追記していただきたいと思います。  
(筧委員が挙手しているのを見て) はい、筧委員。

○筧委員

13 頁の計画のマネジメントについて、7,562 トンから人口減少を加味したうえでさらに3%削減すると記載があります。また、その前の11頁では、食べきりや食べ残し食品の持ち帰り、「てまえどり」の啓発について記載されていますが、「何の施策をやったことで減ったのか」が分かりません。人口減で減るのは分かりますが、啓発によってどのくらい減ったのかが分からないためもどかしく感じます。何を実践したから減ったか、分析する必要があります。以上です。

○佐藤委員長

ありがとうございます。筧委員から啓発など施策によってどのように減るのか分析が必要ではないかというご意見をいただきました。

○環境政策課長

ご意見ありがとうございます。筧委員がおっしゃるとおり分析は大事だと思います。10頁に市の分別カレンダーを挿入する旨の記載がありますが、こちらのカレンダーは毎年全世帯に配布しており、ごみを出す曜日を記載しているものです。令和6年度はカレンダーに初めて3010運動について記載し、冷蔵庫の中に捨ててしまうようなものが無いかなどの呼びかけを行いたいと考えています。

3%以上の削減があれば啓発効果があったと言えるかもしれませんが、啓発によって劇的に変わることは難しく、啓発を継続しなければ食品ロスが減っていかないと思うので、様々な手段を用いながら継続して取り組んでまいります。

○佐藤委員長

ありがとうございます。ぜひ市民や事業者の方への啓発効果も含めて評価していただければ

ばと思います。今後の進行管理については、A・B・Cといった評価項目だけでは判断できない部分もありますので、実際に進行管理を行う際に補足事項として説明していただければと思います。寛委員、いかがでしょうか。

○寛委員

理解しました。

○佐藤委員長

他はいかがでしょう。木谷畑委員、いかがでしょう。

○木谷畑委員

10 頁に「ごみトークや学習会の実施」とあります。学校への呼びかけは行いやすいと思いますが、町内会等へはどういった方向性で進めようとしているのでしょうか。今までごみの分別変更の際はごみトークを実施していましたが、このようなテーマでのごみトークの実施は無かったと思いますので、どのような形で進めようとしているのか教えてください。

○環境政策課長

ありがとうございます。木谷畑委員がおっしゃるとおり、ごみの分別については市民の皆様にごみトークという形で行ってききましたが、食品ロスに特化したごみトークはこれまで実施していませんでした。食品ロスに特化したごみトークをやらなければならないと認識しておりますので、食品ロス削減推進計画を策定した暁には、これをもって各町内会に出向いてごみトークを実施し、市民の皆様にご周知啓発を行ってまいりたいと考えています。

○佐藤委員長

ありがとうございます。そうしましたら、この食品ロス削減推進計画はパブリック・コメントの意見を反映し、審議会の委員の皆様のご意見を聞いたうえで最終版として、ごみトーク等で活用していくということによろしいでしょうか。

○環境政策課長

はい。策定した計画を活用し、市民の皆様にご食品ロスを減らすような生活リズムを作ってもらえるようなトークを実施したいと思います。

○佐藤委員長

ありがとうございます。他にご質問やご意見はありますか。嘉山委員、いかがでしょうか。

○嘉山委員

町内会へのごみトークはどこまで掘り下げるのでしょうか。中心的な町内会だけなのか、隅々までの町内会なのか、教えていただけますでしょうか。

○環境政策課長

ごみトークに関しましては、全町内会に対して呼びかけを行います。食品ロスに関するごみトークを開催して聞いていただけるよう町内会に周知してまいりたいと思います。

○佐藤委員長

ありがとうございます。北村委員、いかがでしょうか。

○北村委員

廃棄物を減らすということは私たちの生活の命題だと思いますが、米軍基地内における食品ロスや廃棄物の処理は横須賀市内で行っているのでしょうか。また、行政がどのように絡んでいるのでしょうか。

○佐藤委員長

ありがとうございます。米軍基地で発生したごみについては市で委託処理を受けているのでしょうか。

○環境政策課長

米軍基地で働かれており市内に住んでいる方につきましては、一般の市民の方々と同じような形で分別ルールに従ってお出しいただいております。基地内につきましては、中に焼却施設等がありますので、市で米軍基地内のごみの処理を受けているということはありません。基地内で処理をされています。

○佐藤委員長

基地内でどれぐらいの廃棄物を処理されているかといった情報は公開されているのでしょうか。

○環境政策課長

そういった情報はいただいております。基地内に居住されている方もおられますし、工場や食堂等もあると思いますが、産業廃棄物とはもかく、一般廃棄物については基地内から基地外に出ていくということはありません。

○佐藤委員長

(米村委員が挙手しているのを見て) はい、米村委員。

○米村委員

啓発活動を担当している職員はどのような仕組みになっているのでしょうか。

○環境政策課長

環境政策課に啓発担当の係があり、そこでパンフレットやカレンダーなどの啓発物を作

成・利用して、ごみトーク等に対応しております。

○米村委員

参考ですが、かつて沼津市が分別回収を行い資源化を進める際、現業職員が早上がりした後、町内会ごとに分担して説明会を行いました。ですから 120 人ほどの職員が説明を担当していたこととなります。一方で、当時東京都は啓発担当の職員が 5 人しかおらず、人口約 1 千万人の都民に対して職員が 5 人という体制でした。

沼津市では人口 20 万人の市民に対して 120 人で、これらを比較するとどれだけ啓発や情報提供が浸透するかは明らかだと思います。その結果として、沼津市では細かい分別に市民が喜んで協力するという状況ができました。一方東京では電車のつり広告やマスコミによる CM などやれることが限られてくると思います。

少なくとも啓発活動を専業として行う担当部署は、民間企業で言えば営業にあたります。例えば生命保険会社など企業の種類によっては、何万人という規模の営業担当の方がいます。

横須賀市の規模であれば、きめ細かい啓発活動をしようとする、それなりの人数の職員が直接啓発するか、または市の職員にプラスして協力してくれるボランティアの方々に動いていただくといったことが必要になるかもしれません。色々考えられると思いますし、現業の職員を呼ぶことは相当大変なことで、色々な労働問題に関わってくると思いますが、もう少しそのような体制を考えたほうが良いと思います。

また、もう一つ、方法としましては、一方的に情報を流すのではなく、例えばワークショップなど参加者に考えてもらいながら一緒に新しいやり方に取り組んで行くといった手法も考えると良いのではないかと思います。

○佐藤委員長

ありがとうございます。ごみトークの方向性について、貴重なご意見をいただきました。

○環境政策課長

米村委員、ありがとうございます。今年度ごみの分別を変えたときに、米村委員がおっしゃられたとおり、横須賀市は部全体で取り組んでおり、現業職員も喜んでごみトークに参加していただいておりますので、食品ロスに関するごみトークを町内会の皆様にお示しした際に反響が大きければ、我々もごみトークに応える体制を作る必要があると思いますので、部一丸となって取り組ませていただきたいと思います。

○佐藤委員長

ありがとうございます。篠原委員、いかがでしょうか。

○篠原委員

食品ロスについては、10 頁や 11 頁に載っている周知・啓発が重要になってくると思います。特に、家庭系につきましてはそれぞれのご家庭への周知啓発が重要になってくると思います。今のところごみトークがメインになってくると思いますが、これ以外に考えている啓



発はありますでしょうか。

○環境政策課長

ありがとうございます。若手職員の中には YouTube を扱える者も多くなってきております。今回の分別変更についてもリチウムイオン電池が内蔵された充電式電池使用製品の発火事故等が多く発生しております、それを啓発するために YouTube の動画を作成しました。若手職員の力も借りて SNS 等を活用するなど、食品ロスの啓発ができるようなアイデアがありましたら積極的に取り入れていきたいと考えております。

○環境部長

皆様、ご意見ありがとうございます。追加になりますが、分別に関しては教育委員会とタイアップして小学校4年生を中心に、若いうちから理解してもらえるような取り組みを現在実施しています。その成果として、小学校4年生の生徒さんたちが友達同士で意見交換ができるようになったり、ご自宅で親に話すなどして家庭内での波及が浸透しているという話を小学校の先生や市議会議員の方からたくさん聞いております。

地道な努力になりますが、啓発を続けて市民の皆様に意識していただき、それが行動に繋がればと思います。また、ワークショップや町内会での出前トークで意見交換等させていただく中で、色々なアイデアをいただき、有効性の高いものを取り組みに活かしていければと思います。

多くの方々に日常生活を送るうえで食品ロスに関する取り組みを自然に実施いただけるよう、例えばシニア層の知恵を若い方に伝えていたり、また、先ほど環境政策課長から話があったような若い世代の SNS の活用については企業や町内会、店舗の取り組みを取材して番組のような形で YouTube で良い事例として紹介させていただくなど、様々な取り組みが考えられると思いますので、色々な方からのアイデアをいただきながら創意工夫を進めていければと思います。

○佐藤委員長

ありがとうございます。だいぶ話題が広がりどのような形で市民の理解を高めていけるかというところまで議論が進んでいると思います。（木谷畑委員が挙手しているのを見て）はい、木谷畑委員。

○木谷畑委員

様々な意見が出ておりますが、町内会で食品ロスのごみトークを呼び掛けたときに、どれだけの人が関心を持って集まってくれるかが一番心配です。先ほど YouTube の話がありましたが、現状の状況を見えるもので訴え、「こういったことに気を付けていただければ、生ごみが減ります」といったアピールをするなど、集まっていただけるような呼び掛けが大事になってくると思います。町内会長の立場としましては、どれぐらいの人が集まってくれるかが気になります。

○佐藤委員長

ありがとうございます。関心を持って参加していただけるよう、事務局のほうで知恵を絞って考えていただければと思います。（北村委員が挙手しているのを見て）はい、北村委員。

○北村委員

ごみ処理基本計画の進行管理の 26・27 頁に各自治体の経費についての記載があります。関心を持って集まっていたいただくための要素として、ごみを減らすメリットやごみが増えることのデメリット等を経費の観点として強くアピールし、集まっていたいただいた方に「食品ロスに取り組んでいかないといけない」と思ってもらえるようなきっかけに使ってみてはいかがでしょうか

○環境部長

ご提案ありがとうございます。確かに市民の方にご協力いただいた取り組みの成果や効果が見える化することは大事ですが、ごみ処理基本計画の進行管理の 26・27 頁について補足させていただくと、埋め立てや焼却してしまったほうが安く、リサイクルした方がコストがかかるということもあるため、この中身をそのまま数字的に表現するのは難しいところがあります。

ですが、先ほど申し上げた見える化という部分で、市民の皆様のご協力により表れた結果を定期的に情報発信する必要があるとは感じていますので、そこら辺の工夫はしていきたいと思います。

また、先ほど町内会でどのようにお伝えするかというお話がありましたが、併せてお話しすると、新年度の4月から災害時のごみの仮置場、災害ごみの処分に関するごみトークを予定しております。能登で地震があった関係で皆様の関心も高いと思いますので、災害のごみトークと併せて食品ロスのごみトークを実施するとか、何万人ものお客様が来られる大型イベントで PR 用のブースを設けてより多くの方にお伝えするなど、様々な機会を捉えてお伝えしていければと思います。1回や2回の発信で伝わるとは思いませんので、地道な道のりになるとは思いますが努力していきたいと思います。

○佐藤委員長

ありがとうございます。前回の審議会で、委員の方からアプリに関するお話をいただいていたと思うので、内容を網羅することは難しいですが、「こういったアプリがある」というのをコラムに入れて紹介していただければと思います。

○事務局

ありがとうございます。そういったところもコラムに入れさせていただきます。また、市としてアプリを作っている会社と連携して取り組んでいる自治体もありますので、横須賀市として書けるかどうかというところはありますが、紹介していければと思います。

## その他

### (1) 今後のスケジュール

#### ○佐藤委員長

続きまして、当日配布資料として皆様のお手元に災害廃棄物の仮置場に関する資料がありますので、これについて事務局の方から説明をお願いします。

#### ○事務局

(当日配布資料について説明)

#### ○佐藤委員長

ありがとうございます。連合町内会の役員会で説明されたとのことですので、連合町内会のお立場として木谷畑委員から、ご意見をいただけますでしょうか。

#### ○木谷畑委員

今回の役員会は出席できなかったのですが、前回災害が起きた時の災害ごみや仮置場について質問させていただきましたので、当日配布資料としてこのようなものが置いてあってよかったです。自分の町内で広場に仮置場を設定できるように情報を発信していただき、こういったところから入っていければと思います。

町内会のごみトークにつきましては、先ほどの食品ロスの話と組み合わせ工夫しながら実施いただき、各町内会で仮置場の設置について検討いただきたいと思います。100年経っても災害が発生するかもわかりませんが、地震だけではなく水害もあり何があるかわかりませんので、早めに決められることは早めに決めておいたほうが良いと思います。以上です。

#### ○佐藤委員長

ありがとうございます。町内会や自治会の方が近隣の児童公園公園に歩いて持っていけるような市民仮置場を作ることは必要だと思いますが、その他に、道路を塞ぐ混合ごみやがれきを置く場所も別個に必要で、そちらは市が仮置場を設営しなければならないものになります。

また、お手元の資料にあるような市民仮置場は町内会・自治会に管理をお願いしようとしているものになりますが、基本的にはここは近隣の方や町内会・自治会の方のみが利用できるように限定するべきだと思います。災害時に仮置場が開設されると、それを待っていた色々な人が災害時に発生したごみ以外のものも持ってきたりします。良くない例だと、トラックに山のごみを載せた違法な解体業者が仮置場にごみを下ろし逃げていくようなこともありますので、仮置場を不法投棄場所しないための努力も必要になります。そういったところも行政としてしっかりと説明した方がよいのではないかと思います。

ほかにご意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。(米村委員が挙手しているのを見て) はい、米村委員。

## ○米村委員

2点お話をさせていただきます。1つ目はBCPについてです。阪神淡路大震災の際に事業をどう継続するかが問題になり、BCP（事業継続計画）を民間企業が活発に取り入れるようになりました。東北や新潟、また、今回の能登の地震でもテレビで紹介されましたが、BCPをちゃんと作っているところは比較的復旧が早いということが報道されています。

実は、廃棄物処理こそBCPをしっかりと作っておかないといけない分野だと思います。仮置場の問題についてもBCPという視点で考えると、まず「防災倉庫には何を常備しておかないといけないのか」ということから始まり色々なことが考えられます。そういう意味でBCPを作ることは重要です。

私はかつて社会福祉法人でBCPを作る際、東日本大震災の時に職員を20名派遣しました。発災直後から1か月ぐらいまで交代で現地に行きました。そうすると、復旧する際にどんなことをやらなければいけないかが現場でよくわかります。ですから、災害時に支援に行くことは、ただお手伝いではなく、自分のところのBCPをきちんと作り上げるのにも非常に重要な活動になります。横須賀市も災害時に他都市に応援に行っているとのことですが、私は当時職員たちに「あなたたちは他の職員が埋め合わせをしながら空き時間を作って行っているのだから、帰ったらBCPを作るのに必要な情報を報告するように」と言っていました。

実際に手伝いに行くと、どの段階でどんなことが起きているのか、どんなことをしなければいけないのかを実践で盛り込んだBCPを作るということが非常に重要だと思います。

2つ目は、先ほど少しお話として触れましたが、各町内会に置かれている防災倉庫についてです。食料や水は入っていると思いますが、仮置場の話に関連して言いますと、例えば猫車や大きめのバールなどの道具がどれだけ充実しているか、あるいは最近で言えばポータブル電源が有ると無いとでは災害時に大きく違ってきます。防災倉庫をどのようにしていれば通常の生活に早く戻れるかということも検討していただければいいのではないかと思います。以上です。

## ○環境部長

貴重なご意見ありがとうございます。BCPについては必要だと思っております。横須賀市では去年からすべて改定し、新たな体制づくりの中で新しい気づきを入れて修正版を作り進めているところです。百聞は一見に如かずという言葉がありますが、お手伝いや応援に行ったときに能登半島を三浦半島に置き換えられる部分もあると思います。過去に横須賀市も千葉に行っておりますが、それだけではなく新たな災害や被災地の状況では道路が分断されていたり、水道機能が麻痺していたりなどあると思いますので、それぞれを横須賀に置き換えたらどうなるかという心づもりが非常に重要になってくると思います。そういった部分を糧にできるように、応援の要請などの機会があった際には積極的に行きたいと労働組合も含めて話を進めているところです。

また、各町内会の防災倉庫についてのご意見もいただきましたが、猫車やバール、ポータブル電源なども必要になってくると思いますので、所管している危機管理課にこの場で委員の方からご意見をいただいた旨を伝え、横須賀市の防災倉庫の中身がどうなっているか、充実しているかなど情報提供させていただきます。

○佐藤委員長

今の能登半島の状況を見ますと、10年ほど前にも地震がありましたがその備えがあまり上手くいってなかったと感じます。横須賀の方ではまだ大きな地震が発生していませんが、武山断層地震や三浦半島が震度7に襲われるような地震も起こり得ますし、首都直下型地震や南海トラフ大地震などが起きるとかなり大変だと思います。半島の先端のほうは能登半島と同じような条件で、なかなか支援のアプローチが遅くなったりします。半島地域は特に支援の手が届くのが遅くなりやすく、行政と市民の自助共助が基本になってくると思いますので、市としては市の防災倉庫だけではなく、町内会の防災備品であった方がいいものなどのモデルケースも含めてごみトーク等で啓発していただければと思います。

これまでの議題も含めて全体を通してご意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。(筧委員が挙手しているのを見て) はい、筧委員。

○筧委員

中身についての意見ではございませんが、3つの資料を見ますとフォーマットや字の大きさ、字の形体がバラバラだと思います。例えば、進行管理の表紙はゴシックの太字になっていますが、食品ロス削減推進計画(案)では明朝体で書かれており字の大きさも違います。また、「2024年度」という表記が入っていたり、入っていなかったりします。さらに細かく中身を見ると、数字の「1」の下が「(1)」、「①」、「ア～オ」、それからローマ字と続っていますが、これらの統一がされていないように思えます。当日配布資料のパワーポイントについては良いと思いますが、3つの資料のフォーマットの統一化や標準化はどれぐらい気にされて作っているのでしょうか。

○佐藤委員長

ありがとうございます。ただ今のご意見について、事務局いかがでしょうか。

○事務局

ご意見ありがとうございます。可能な範囲でご指摘いただいたようなところ関しましては、配慮して資料を作っていくと思います。資料を作った担当が異なっていたためこのような結果になってしまったと思いますが、項目番号のようなところは統一するべきだと思っておりますので、今後資料を作っていく際には気を付けていきたいと思っております。

○佐藤委員長

ありがとうございます。全体を通して、藤田委員いかがでしょうか。

○藤田委員

先ほどごみトークの話がありました。私は横須賀市の職員とずっとごみトークを一緒にやってきましたが、積極的に取り組まれていると思います。平成12年頃一番初めにごみトークをやったときは1,400回ぐらい実施し、私は1人で140回行ったこともあったと思います。

そのぐらい過去に横須賀市も実施しており、今も取り組んでいます。

気になることとしては、町内会へのごみトークはあまり人が集まらず、来る人がいつも決まっていることです。文化会館で資源回収についてのごみトークをやった際に、その時には私の話を4回聞いたという方がいらっしゃいました。来る人は一緒であり、それは今後も続いていくと思うので、その中でどのように実施するかについては考えていく必要があると思います。

また、仮置場について、熊本地震の際には実際に現地に行きましたが、広さや規模が桁違いでした。また、道路事情で言えば横須賀のほうが、車が多いのではないかと感じました。アイクルの隣で仮置場の訓練を過去に実施しましたが、そのような災害規模の時に、車で災害廃棄物を大きい広場に運搬するのは難しいため、小さい公園から災害ごみを集めるしかないと思います。

○佐藤委員長

ありがとうございます。全体を通して、青委員いかがでしょうか。

○青委員

災害廃棄物の仮置場に関する当日配布資料についてもそうですが、何のための資料だかよくわかりません。仮置場の問題点のページで「○」や「×」などの記載がありますが、横須賀市に当てはめたときにどうなるかということが全く書かれていません。

津波が起きた場合、アイクルはハザードマップでも非常に危険な地域になっています。しかし、資料の写真では山にあり、海の近くではありませんので、当然津波の来るような場所になっていません。どこに仮置場を設定するのか、また、船で運ぶということも想定されるのであれば、船で運びやすい海側にどういう時期にどう運ぶのか、段階的に考えていくような計画が必要になります。なので、この資料を貰っても「何の役に立つの？」ってなってしまいます。

食品ロス削減推進計画もそうですが、すごく大事なことをやっていますが中途半端な部分が多く、不明確なように思えます。例えば、先ほどの食品ロスをどうやって減らすかという話でも委員の方から意見がありましたが、数字がどういう数字なのか分かりづらいですし、目標設定の仕方もちゃんとした統計的なデータで試算しているようにも思えないです。大学におりますとデータ分析のやり方をしっかりと考えないといけないため、「どうやってこれは計算したのだろう」って思われてしまう資料でいいのだろうかと思いました。どこを目指しているのかといったことや、市がやっている取組をアピールできるような報告書にしていただけならばと思います。

○佐藤委員長

ありがとうございます。災害廃棄物の仮置場に関する当日配布資料は、基本的には協力をアピールする資料であって、このぐらいの被害が起きて、それによりどれぐらいの災害廃棄物が発生して、それをどうやって処理をするかといった基本方針は、市として災害廃棄物処理計画に定めていると思います。県や市町村も地域防災計画を作っていますし、災害廃棄物

については災害廃棄物処理計画を作り具体化しています。

仮置場についても、市で設置する大きい仮置場は作る場所を事前に決めており、訓練の時にも説明していただきました。そういった仮置場だけではなく、地域の皆様が災害で発生した家具などの片づけごみを持っていくことができる近場の仮置場を町内会・自治会の方に設営・管理いただきたいというお願いの内容が今回の資料だと思います。そして、町内会・自治会の管理によって仮置場で集めた災害廃棄物を、市が設営した仮置場に運んで処理をする流れだと理解しています。市のほうから補足があればお願いします。

#### ○事務局

ありがとうございます。これらは市民の皆様にご説明していく資料になりますので、その場でご意見をいただいたり、こういった場でご意見をいただきながら、少しずつより良いものにしていければと思います。

#### ○佐藤委員長

ありがとうございます。ここで、能登地震の今の状況を少しご紹介したいと思います。昨日の夜のニュースで災害廃棄物が240万トン発生するという数字が出ました。この廃棄物を処理しないことには被災地の復旧や復興ができません。

具体的にはまず、家が崩れて壊れた家具や家電については、片づけごみとして仮置場に運びます。倒壊してしまった家屋については、家屋解体の手続きを経て大きい仮置場に搬入し、分別したのちにリサイクルできるものはリサイクルし、焼却するものは焼却します。国土が狭いため処分場があまり無いので、何でも埋めてしまえばいいという発想は常に無く、できるだけ埋める量を少なくしながら災害廃棄物を無くしていくという段取りを取らざるを得ません。

その計画として石川県が発表したのは災害廃棄物を処理するための処理方針で、そこで約240万トンの災害廃棄物が発生すると記載しています。まだ家屋の解体やそれに伴う撤去をしていませんので、それらを行いながら災害廃棄物を処理することになります。処理の期間は令和7年度末までの約2年弱です。災害廃棄物を処理するには、海岸線が隆起しており道路を直すのも大変な状況にあります。そのため、陸路で廃棄物を運ぶだけでは厳しいので船を使う運びになっていますが、港が機能していないので港の整備も同時進行でやらなければならない状況です。

家屋解体については5万棟ぐらいが対象になっています。本来であれば家屋解体は所有者が負担することになっていますが、大規模災害時には公費解体することができ、対象になるのが全壊・大規模半壊・中規模半壊・半壊までで、これが2万棟以上あります。その手続きは所有者がいる場合、所有者の同意が必要になりますので、行政はそういった手続きを他自治体等の支援を受けながら行います。

処理に関しては、県内の一般廃棄物処理施設・産業廃棄物処理施設で処理するか、陸路や船で運搬し広域的に処理を行う形になっています。横須賀市からも廃棄物関係の方は行ってないと思いますが、消防や保健師などは支援に行っていると思います。これらの経験から横須賀市でも準備していただければと思います。支援に行ったらできるだけ情報を持ち帰り、

ここが被害を受けたときはどういった状況になるか、想像力を膨らませて備えをすることが大事だと思います。計画に基づき実際に仮置場を作る訓練は昨年や一昨年にアイクルの隣で実施していますが、青委員がおっしゃられたとおり、あの場所は津波に飲まれてしまう可能性があります。東日本大震災の時も大きな仮置場の用地は内陸ではなかなか確保できず、沿岸部の津波被災した空き地に設置しました。次の地震で津波が来たら全部流されてしまうような危険な場所で仮置場や処理施設を作りながら処理を続けていたところもあります。仮置場は住民の避難所や仮設住宅、救助関係で使う場所との調整になります。そういった調整をしながら廃棄物関係に従事している職員は、なんとかして環境部で仮置場として使えるような場所を確保しようと動かれていると思います。災害発生時は市の防災・危機管理部局が中心に動き、被災者支援、避難所やトイレ対策、仮設住宅等の対応が中心とならざるを得ず、結果的に災害廃棄物を集める仮置場を作れず、処理もできず、その結果復興が遅れるということになりかねないので、庁内で声を挙げて実効的な備えを頑張ってくださいとお願いしたいと思います。

(米村委員が挙手しているのを見て) はい、米村委員。

#### ○米村委員

関東大震災の時、鎌倉には横須賀の海軍の方が多く住んでいました。震災時、横須賀の海軍基地から駆逐艦を名古屋に向かわせて医薬品や食料を運び、鎌倉市に持ってきていただいたという話を聞いたことがあります。海軍のようなところこそ非常事態に即応できる能力を持っているのではないかと思います。港が無いから何もできないということではなく、例えば、三浦海岸から上陸用舟艇を使えば人や物資やごみを運べるのではないかと思います。そういった知見があるのかわかりませんが、今の能登半島についても護衛艦一隻行けばヘリやドローンを飛ばせそうですが、全然動きがありません。東日本大震災の際も米軍は動きましたが、日本の海上自衛隊はなかなか動いていないように思えました。

BCPの一環として、ぜひ米海軍や海上自衛隊との連携について市で考えたり、また、市だけで考えるのが難しい場合は県などと協力して考えたほうが良いと思います。

半島のメリットは、片側は津波の被害が大きくても、反対側は被害が少ないケースがあることなので、海を利用すると内陸よりもアクセスが良くなるかもしれません。半島のデメリットを逆手にとって、半島ならではの防災対策をしてみたいかと思いますが、以上です。

#### ○佐藤委員長

ありがとうございます。「半島ならではの」というのは重要なキーワードだったと思います。そのほかにご意見は無ければ、本日の議事は以上です。事務局の方から事務連絡等があればお願いします。

#### ○事務局

ありがとうございます。今後のスケジュールについてです。先ほど食品ロス削減推進計画の中でも説明しましたが、13日からパブリック・コメントを実施いたします。パブリック・コメントでいただいた意見と本日いただいた意見を踏まえて、食品ロス削減推進計画



の最終案を作成させていただきます。3月下旬には委員長に確認をいただいたのち、委員の皆様へ確認依頼という形で送付させていただきます。

本日の議事概要につきましては、出席された委員全員に内容のご確認をいただいた後に、公開とさせていただきます。議事概要（案）は、作成次第、各委員に送付いたしますので、発言内容等のご確認をよろしくお願いいたします。

○佐藤委員長

本日はお疲れ様でした。これもちまして、横須賀市廃棄物減量等推進審議会を閉会いたします。

以上